

収蔵品展「文化財をつなぐ—修復文化財の世界—」

会期：令和 5年12月 9日（土曜日）から令和 6年 2月25日（日曜日）まで

ごあいさつ

博物館の仕事、と聞くと、まず「展示」を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。あるいは、「調査・研究」をイメージする方もいらっしゃるかも知れません。その一方で、文化財の保存や修復に取り組むことも、博物館の大きな役割の1つです。

栗東歴史民俗博物館が開館して間もない平成4年（1992）に実施した、山口寺（栗東市荒張）の廃寺にともなう調査では、須弥壇の下から天部形立像の部材が多数発見されました。それらを組み合わせたと、多くの部材が損なわれていた四天王立像（2軀）の復元が可能となったほか、それまで知られていなかった天部形立像1軀分として組み上げられました。いずれも平安時代の優品であることが明らかになったこれらの像は、このことをきっかけに平成10年（1998）には滋賀県指定有形文化財として指定されています。博物館が、地域の文化財に対して大きな役割を果たした一例と言えるでしょう。

収蔵品展「文化財をつなぐ—修復文化財の世界—」では、栗東歴史民俗博物館の収蔵資料から、さまざまな事例を通して、文化財の修復について紹介します。

令和 5年12月 9日  
栗東歴史民俗博物館

△は県指定文化財、□は市指定文化財

凡例	資料名	員数	年代	所蔵者等
△	木造男神坐像	1 軀	平安時代	五百井神社（栗東市下戸山）
	木造狛犬	1 対	南北朝～室町時代	五百井神社（栗東市下戸山）
△	【旧山口寺伝来資料】木造天部形立像	1 軀分	平安時代	金勝寺（栗東市荒張）
△	【旧山口寺伝来資料】木造四天王立像	2 軀	平安時代	金勝寺（栗東市荒張）
△	木造狛犬修復時撤去材	一括	平成元年（1989）撤去	大宝神社（栗東市繪）
△	木造狛犬	1 対	鎌倉時代（元享年間・1321～24）	大宝神社（栗東市繪）
□	木造熊野本地仏像	6 軀	平安時代	熊野神社（草津市平井）
□	木造聖観音菩薩立像	1 軀	鎌倉時代	萬年寺（栗東市小野）
	木造懸厨面（肉付の面）	1 面	桃山時代	興敬寺（日野町西大路）
	林村地券取調総絵図（未修理）	1 鋪	明治6年（1873）	館蔵
	野尻村地券取調総絵図（板巻状）	1 鋪	明治6年（1873）	館蔵
	出庭村地券取調総絵図（折畳状）	1 鋪	明治6年（1873）	館蔵
△	【旧善勝寺伝来資料】 算額（明和四歳亥十一月日井上太左衛門宗益等奉納）	1 面	明和4年（1767）	阿弥陀寺（栗東市東坂）
△	【旧善勝寺伝来資料】 算額（文政二己卯秋下旬井上太左衛門宗朝奉納）	1 面	文政2年（1819）	阿弥陀寺（栗東市東坂）
	【複製】算額（明和四歳亥十一月日井上太左衛門宗益等奉納）	1 面	平成3年（1991）作製 原品：明和4年（1767）	館蔵 原品：阿弥陀寺（栗東市東坂）
	【複製】算額（文政二己卯秋下旬井上太左衛門宗朝奉納）	1 面	平成3年（1991）作製 原品：文政2年（1819）	館蔵 原品：阿弥陀寺（栗東市東坂）
	国松 桂溪 画「八坂の塔」	1 点	大正時代	館蔵
	国松 桂溪 画「天河」	1 点	大正5年（1916）	館蔵
	西田 恵泉 画「残照」	1 点	昭和29年（1954）頃	個人蔵
	岡 笠山 画「癸酉年山水図」	1 幅	文化10年（1813）	個人蔵
	岡 笠山 画「漁人二人図」	1 幅	江戸時代（19世紀）	個人蔵
	岡 笠山 画「勸進帳弁慶図」	1 幅	江戸時代（19世紀）	個人蔵
	岡 笠山 画「牛図」	1 幅	江戸時代（19世紀）	個人蔵
スポット展示（ロビー）				
△	琵琶湖近傍大絵図	1 幅	大正2年（1913）模写	館蔵（『里内文庫資料』No.355-1）

【関連企画】

○展示解説会：12月16日（土曜日）、1月13日（土曜日）、2月11日（日曜日・祝日） いずれも14時から（1時間程度）

○歴史文化財講座「文化財をつなぐ—文化財修理の現場から—」 2月17日（土曜日）10時から【要事前申込：1月10日水曜日受付開始】  
講師：坂田 さとこ さん（株式会社坂田墨珠堂 代表取締役・装こう師）